昭和36年　扇谷一貫先生、第３代美歯会長に就任

牛丸　博、橋本隆市両先生副会長に、高橋常美先生専務理事就任。

一斉休診と保険医総辞退。この頃よりエアタービン登場。

雨田　実先生再入会（市内開業の為）５月

鬼塚周博先生転出　５月15日

石原利男先生転出（三菱鉱業炭鉱病院勤務より）８月８日

（昭和28～35年迄副会長として北野幸夫第２代会長を補佐）

人物紹介並びに短歌掲載あり。

この年の会の活動は、道歯会通信２月発144号に高橋常保先生が詳しく紹介している。

36年美歯のうごき

▶４月～５月

毎週木曜日全員一斉休診、学童口腔検査に出動、市内30数校をこの２ヵ月で検診するのである。美歯の学童口腔検診は、昭和４、５年頃ムシ歯予防デーが始まって２、３年後から継続しているのであって、ちょっと道内でも自慢できるものと思っている。はじめの頃は会員各自の持ち出し自弁でしかも会員が少なく、それでいて各校比較統計なども表に作って、時には学童に鉛筆１本宛贈ったこともある。今考えると全く涙ぐましい思い出である。この頃は市教委から手当も出るし、何の苦労もなくなった。統計も中絶してしまった。

国保補綴の問題で市役所と会談、会としては契約を断わった。

前会長北野幸夫氏、前副会長石原利男氏に記念品を贈ることに決定。

桜田巳年二氏、昨年11月頃より全身異和を訴えていたが、４月１日より全く治療不能となり、休診休養することとなった。

▶６月　口腔衛生週間

無料検診とよい歯のコンクール実施

無料検診は一般の理解が乏しく、成績は芳しくない。

よい歯のコンクールは、小学校６年男女と中学校３年男女を対象とし、学童検診の際優良表彰をした児童を学校から引率参加して貰ってそれを会員全部が分担、予診から第一次診査、第二次診査を経て決定するのであるが、もちろん全身の発育状況も参考に供される。年々優良児童も多くなり、この催しも盛大になりつつあることは喜ばしい。

▶７月

医療費値上げに伴なう暫定措置などで、ちょっと緊張の場面もあった。

下旬には岩見沢産経会館に地方学会が開催され、多数出席。

桜田巳年二氏に見舞金贈呈

雨田実氏入会、大通北２丁目に開業された。

▶８月

道歯学会、多数出席

石原利男氏、三井砿業所病院を辞し、内地引き揚げのため退会された。

▶９月７日

役員会、温根湯または天人峡を調べること。

▶10月14・15日　1泊2日
恒例の学童診査慰労の旅行会が遅れ、しかもはじめは温根湯、再転して天人峡がどこも室が取れず、三転してお馴染み札幌第一ホテルにて開催、まずは目出度い催しである。
▶11月16日
北野幸夫氏発起人となり、桜田巳年二氏見舞金全員賛成拠出した。
▶12月15日
共に第3木曜会社保の研究会である。
▶1月10日
新年会ではあるが、国保の補綴問題で苦しい問答。市との交渉は会長に一任と決す。
（高橋常保記）

昭和36～37年頃

美唄歯科医師会15周年記念史編纂の気運大いに盛り上がる。

この件に関し、雨田実先生が、道歯会通信に「まぼろしの記念誌」と題し、会員のひろばに掲載されている。

まぼろしの記念誌

かえり見れば昭和36年ごろと思うが、美唄歯科医師会15周年記念誌の発刊と併せて、大正以来の美唄歯科界の沿革史の編纂をという話が持ち上がり、幾度か会合は持ったが不調に終わってしまったことは以前書いた。最近その会合のメモを見つけたので、40年近く前の諸先輩の言い語りをメモったものを書いてみるのも、今後における記念誌編纂に少しばかりは役に立てればとペンを執った次第である。

昭和37年1月11日。美唄歯科医師会記念誌編纂の第1回会議開催。出席者は扇谷会長、牛丸副会長、高橋常保、北野幸夫両顧問、扇谷明典理事の他にかく言う小生であるが、理事でもなく入会半年の小生が、どうしてその席の末席をけがしていたのか定かでない。

毎週1回木曜日、会長宅で編纂のための会議を実施する。会から記念誌編纂のために支出をどうするのか、記念品は当時の金額で2千円程度の金属の花瓶とする。（記念誌は結果的に出来なかったが、記念品だけは各会員に配布したので平成9年現在も保存されている先生もいると思う）取引歯科商店（石田、宗広、北海歯科産業、三上）の業者から広告を載せてもらう。表紙は、裏の台字は、目次、沿革、15年の庶務報告、日歯中原　実会長（中原　爽会長の実父）、鹿島、竹中両参議院議員に祝辞依頼、現美唄会長は発刊の言葉とする。歴代美唄会長、美唄前、元会員、現会員全員から感想文、思い出などを出来るだけ多く出してもらう、美唄屯田史を載せる等々を、2月14日の8回目の会議で結論として現行の締切り期日を3月17日の総会当日とする、と決めた時の各委員の熱意がタイムスリップして感じられる。1月11日第1回の会議以降随分とガンバッたことを思い出す。中原会長、竹中、鹿島両参議院議員に、巻紙に毛筆で依頼文を幾度も書きそんじては書き直したことを昨晩のことのように思い出す。

思えば2月14日、3月17日総会当日を原稿締切と全会員にお願いした時点では、小生は記念誌は出来ると確信していた。しかるにその頃から、高橋常保編纂委員長が病のため欠席がちになり、前途に暗雲を感じかけた外に、前年まで三井美唄炭鉱病院歯科医長の美唄歯科医師会前副会長石原利男先生が三井退職後、四国坂出市の病院に転出されるという、美唄歯科医師会にとって、特に記念誌編纂のためには大変な痛手となった。石原先生は短

歌界でも著名な外に柔道4段、空手3段の文武両道に勝れ、著書も幾冊か発刊されている有力者であったので、遠く四国の空をうらんだことを思い出す。その上悪いことは重なるもので、総会をすぎて1ヵ月以上を経ても予定の原稿は⅓も集まらずに、美唄記念誌丸は山に登ってしまった。今にして思えば、たとえ石原先生がおいでになっても、この始末では発刊は無理であったと思う。高橋先生がお元気であれば、原稿の集まりは悪くあっても大正初期以来の、日本史でいえば高天原時代ともいえる美唄歯科医師会外伝ともいえるものの外に、終戦後新生美唄歯科医師会初代会長就任後2期4年の実績から記念誌は成ったと思う。後になり、中原会長、竹中、鹿島両議員はじめ多くの先生方に、お礼状と一緒に恥ずかしながらと戴いたご祝辞と原稿を礼を盡して、おかえししたことを思い出す。2度とこのような役には就くまいと誓ったことも。　雨田　実

昭和37年

加藤由比先生入会　2月10日

菊田　博先生退会

宗岡五郎先生退会

北海道歯科医師国民健康保険組合が定山渓で開催。高橋常保先生出席。

この時の難儀が原因で病状に伏すること20日間。道歯会通信152号に珍しい先生の記述がある。

二十日間の闘病記

8月4日、北海道歯科医師国民健康保険組合会が定山渓に開催されるので、あの出水の最中、私の宅も玄関床上すれすれまで浸水していたのを、水田用のゴム靴を買って貰って停車場へ駆け付けた。

私の乗った列車は幸い札幌まで通じたが、その次の列車から不通になったということを後で聞いた。

定山渓へも途中バスで連絡、散々のていたらくである。

私を含めて漸く過半数の出席、無理もない、全道至るところ鉄道はズタズタ、札幌間ですら不通で、理事長を札幌からハイヤーで迎えに行ったという悪日である。北見、釧路など、飛行機で出席されたのには全く敬意を表せざるを得ない。

会議もそんな訳で、午後一時の招集が六時過ぎに漸く開催された。300円の値上げ案で、議論沸騰、会議の終わったのは10時に近く、臥床11時。5日の朝刊は列車不通を報じていた。何はともあれ札幌駅まで行って様子を見ることとし、2時頃駅に着いて見たら、恰かもよし、夕鉄の南幌向へ臨時列車を運転するという。これ幸いと列車に急いだが、何分老年の足、掛ける座席などある訳もなく、とうとう列車はもちろん連絡バスも岩見沢まで立ち通し。これが大分身体にこたえたものと見え、過労は遂に風邪気味が続き、9日腹痛を覚えたのが、10日早朝猛烈な激痛、油汗を流して輾転反覆生きた心地もなかった。医師の往診を得て漸く助かったが、まず痛みの極致であったろうと思った。

それからがまた大変。まず食欲が全然なく、身体を起こすと嘔吐を催す。何も食べていないので胆汁を吐くのだが、まずこれ位辛いことはないと思う。これが一週間も続いたのだからたまらない。毎年欠かしたことのない学会も、今年は出られないで8月いっぱいを寝てしまった。　高　橋　常　保

昭和38年　美唄歯科医師会発会15周年に。

三井美唄鉱業所閉山す

この年の記録は、通年詳しく、道歯会通信に掲載されている。

1月30日　桜田巳年二先生永眠さる。

昭和23～25年理事、昭和26～31年副会長として、第2代北野会長を補佐。昭和32年～35年同監事。大正15年以来、有余年にわたり、道歯会の重鎮として、その責を全うして余りある先生を失う。

古希を過ぎた、日歯終身会員として万年青年、飯田右翼氏、高橋常保氏のいまだ健在なる時、桜田先生の御死去は、惜しみても余りあるところである。詳しくは人物紹介参照。

2月7日

美唄歯発会、15周年を迎えるにあたり記念誌発刊準備会議開催さる。

3月3日

今中喜代二先生、東京都練馬区へ転出。

昭和23～25年初代美歯会専務理事。昭和26～35年第2代北野会長を副会長として補佐。美唄開業十九年の老中として、又美唄歯科という看板の元に温厚、篤実、誠に君子人としての先生の去られることは、先に桜田先生を失いたる美唄歯にとって誠に悲しむ限りである。人物紹介あり。

3月17日

美唄歯会定時総会にて美唄歯発会15周年を祝う。

美唄歯発会15周年記念として、初代高橋常保氏、第2代北野幸夫氏、両会長に感謝状を贈呈。会員全員に記念として花瓶を贈る。

会長選挙に扇谷一貫会長再選される。

雨田実先生（のちの第4代会長）が専務理事に就任する

4月9日

現会長　宝崎錠二先生入会。

4月11日

美唄市長及び市議会議長に学校歯科医手当の増額の申入書を作成する。

道歯石井会長より、同問題に対し、要望書を戴き側面より援助受く。

4月17日

恒例の学校検診事業始まる。

毎週木曜日、6月初旬迄、市内小中学校の検診に忙殺。詳細は次頁美唄だより参照。

5月8日

三井美唄炭鉱病院勤務、菊田　博先生、苫小牧へ転出（5月24日）

最盛時、歯科医師５名を有した三井美唄鉱閉山。

５月25日

午前、学校検診後、登別へ恒例の一泊旅行。

６月６日

「良い歯のコンクール」開催

口腔衛生週間行事として、市内小・中学校の学児童を対象に恒例の「良い歯のコンクール」を行う。

８月28日

北野幸夫美歯顧問、歯科医師国保支部長に。

９月12日

高橋常保初代会長、市教育委員会から表彰。

大正年間からの40年間にわたっての学校検診に貢献した労に対し表彰される。

10月26日

社保補習講習を札幌で開く。道歯理事の垰田、山田両先生に御依頼。

12月５日

12月中に開会予定の市議会において提案予定の校医手当問題を美歯として協議。

当年15周年記念誌発刊かなわず。

詳細は「まぼろしの記念誌」の項に

昭和39年２月発行　道歯会通信に、美唄だよりとして雨田実先生が口腔検診の大変な様子について投稿されているのでご紹介する。

美唄だより

今春４月小学校へ新入学予定学童の口腔検診が、１月下旬から２月上旬にわたって行われた。何しろ南北30キロ、東西40キロに及ぶ広大な地域に点在する小学校約30校、中には１校の新入学予定学童数12、3名の学校も珍しくないが、そういう学校はそういう学校で、雪のために車も通れない文字通り馬の背中のような雪道を、往路だけでも４キロも５キロも歩かなければ行けないようにできていて、日頃歩くことの少ないわれわれのためを思って歩かせるわけでもあるまいが、結構良い運動をさせられた。

新入学予定学童数は、炭鉱合理化の余波をまともに受けた炭鉱地帯の学校の入学予定学童の減少が眼をひいた。その中で何といっても特筆すべきは、三井美唄小学校の、新就学予定学童数の激減ぶりである。僅か80名という少数である。いかに三井美唄鉱が閉山したといっても、第二会社も幾つも出来ている現在だけに驚きである。

三井美唄鉱華やかなりし頃のピーク時には、就学予定学童数800名を数え、全校学童数4000名、一学年の学級数15学級、教職員100名を数え、教員会議にはマイクとスピーカーを必要とし、運動会も全校一度に挙行できず、各学年毎に分かれて行わねばならなかったマンモス学校であった。全道一はもちろん、日本最大の学校といわれた。

父兄の大部分を占める三井美唄鉱の社員も、その頃は職員、鉱員合わせて4500名を数え、三井美唄鉱付随の南美唄商店街の年間売上高が、母町（現在の美唄駅周辺の市街地）商店街の年間売上高を上回った毎年であった。三井鉱山社長の山川良一氏が参議院選に出馬して、全国区で最高点で当選したのもその頃であった。誰れかの歌の文句で、「三井様々三菱さん警察の旦那に税務署の奴」等と、美唄市における三井鉱山の威力は大したものだった。

それがどうであろう、10年後の今日、三井美唄鉱は閉山、新入学学童は80名という寂しさである。炭鉱病院歯科も、最盛期には歯科医師５名を数えたものであった。「会社はつぶれても炭山は残る」無責任な一部の国会議員や労組幹部連は、炭鉱がつぶれて会社の残った美唄の現実を何と見るであろうか。

第２代会長　北野幸夫先生の学校保健功労賞受賞

前年の高橋常保先生に引き続き、大正年間からの長年にわたる、学校検診等の活動に報いる為、表彰される。

この頃、扇谷一貫会長、高血圧により入退院を繰り返す。珍しく道歯会通信に「まず健康で」と題し、一文を寄せている。

まず“健康”で!!

昨昭和39年は、内外ともに重大なるニュースのあった年でした。中でも我らにとって最も明るいニュースはオリンピックでしょう。お陰で世界のすみずみまで先進国としてのわが日本を認識させることができました。誠に慶賀の至りです。

これに反し、われわれ医療にたずさわる者達はどうだったでしょう。日歯ならびに政連の役員諸公のなみなみならぬ御努力と御奮闘にもかかわらず、敵の作戦と術中に落ち入り、一年有余を経過せる今日なおその目的を達するを得ざるのみか、前途はまだまだ楽観を許しません。

われわれは、患者に少しでも迷惑を懸けないという信念のもと我慢して来たのです。しかし、我慢にも限度があります。総辞退まで行かねばどうしても解ってくれなければ、また止むを得ずです。

さあ今年こそ決選の年です。三万会員の団結あるのみです。そして頑張りましょう。そして勝ち抜きましょう。

小生、昨年は８月以来約半年、病気のため入院やら自宅療養やらで、会務はすべて副会長ならびに専務に任せきりでして、誠に申し訳なく思っています。お蔭様で病気も39年でおさらば、本年は以前にも優る健康を取り戻しました。

残る任務は僅かとはいえ、大いに努力して皆様へのおわびと致したいと存じます。

どうかよろしく御指導の程をお願い申し上げます。

もとより、われわれは医療費上昇のスライド制、再診料等々夥多の問題は、すべてこの中で解決する。また当然、各政党の政策審議会にも、その期限付実現を要求する。しかして諸種統合一本化の終局期限41年度末とする。

このときモタついていたときは、唯一の武器、返上ということであろう。

いつの日もわれわれは、正しい医療に精魂をつくし、当然なその診療の権利としての報

酬が、支払われる側の一方的評価に押しつぶされ、それに甘んじなければならないということはあり得るべきではないはずだ。

われわれはこの線で国民にＰＲし、高く掲げるスローガンは『健保一本化で国民総医療の完成へ』と飛躍して主体性を持ち、進まなければ、国民のための医師であり得ないと思う。

幸いに道歯に北海道社会保険医療改善対策本部が12月代議員会で承認され、32名のエキスパートを選んで発足した。「道歯会通信」178号で「医療闘争は長期戦か？」なぞという、がっくりさせるような見出しはつけないよう、1300名道歯会員の翹望、いや、全国三万五千同業のためにたくましい前進を期待するものである。　　扇谷一貫

昭和40年４月発行（第182号）の道歯会通信、美唄だよりに、北野先生のお元気な様子が記述されている。

ありし日の先生にしばし思いをいたす。

美唄だより

３月27日、昭和39年度の美唄歯科医師会定期総会が開催され、北野顧問の名議長ぶりもさることながら、至極スムーズに議事は進行し、役員改選に進むや、間髪も入れず飯田監事から、「飯田監事以外は留任」という、至極都合のよい発言に、役員一同唖然とするうちに扇谷明典新監事を選出し、文字通りジェット機なみのスピード人事の決定をみたことは役員一同、ただただ一パイ喰わされたような気持ちであった。

ところで、春を迎えて楽しいニュースを一つ。自分のことでいささか恐れ入るが、近頃、金もできないのに、胸囲に比べて胴囲が増えてきて、少々苦しいので、昨春からアイヌ犬の飼育を始め、毎朝一時間、犬とともに歩け歩けである。ところが、世の中は広いようでせまいもの、美唄歯会の北野顧問によくお会いする。しかも犬を連れた先生にである。その犬たるや、音に聞く八犬伝の「やつふさ」に似た秋田犬である。

ひと口に犬の運動などといっても、気の向いた時とか、陽気の良い時にだけするのならよいけれど、毎朝となると、小生のごとく若い？うちならよいが、正にひと仕事もふた仕事でもあるのに、さて、それからというものは、唄の文句じゃないけれど、雨の日も風の日も、秋田犬を連れた先生の雄姿をよくお見かけしたのに、どうしたことか、二ヵ月ほど前から突然、お目にかかれなくなってしまった。

それも、一週間や十日のことなら、旅行とか風邪をひかれたとか思うところであるが、ひと月、ふた月となれば、「どうしたのですか、秋田犬にアキタのですか」等とお電話でも、と思っているうちに総会開催の運びとなったので席上、「この頃、愛犬の散歩はどうしましたか？」とお聞きしたところ、北野先生曰く、「雪はつもるし、この頃、犬の奴、力が強くなってしまって、こちらが転ばされてしまうので運動に出していない」とすました顔である。会長始め、２、３の大老先生方がニヤニヤしている。どうもおかしな空気であると思っていると、ややあって、北野顧問少しもさわがず開口一番、「皆さん、今度、婆さんをもらいましたから、よろしく」と、破顔一笑の大本営発表があった。美歯会員一同さもありなんとばかり拍手また拍手で、ともかくおめでたいことであった。

俳句に“いざ行かん、雪見に転ぶところまで”もっとも転ぶにもいろいろあるそうであるが、愛犬に転ばされなければならなかった訳も、また語るに落ちた訳である。

総会終了後、「道歯通信に書くなよ」の捨台詞（すてぜりふ）を残して、いち早く帰路につかれた北野顧問のうしろ姿は、お年より10才も、それ以上も若々しく見うけられた。

願わくは、道歯会員の諸先生方にも、前美唄歯科医師会長として10年の長きにわたった北野先生と御懇意の先生も多数おいでのことと存じますが、先生の第二の人生に御祝詞あらんことを乞う。

北野先生万歳!!なんだか羨ましい気もしますね。　（雨田　実 記）

昭和40年

5月9日　**岡田一夫先生急逝さる。**

美唄市労災病院に勤務されて8年、温厚にして篤実な先生であったが、クモ膜下出血のため、44才の若さで亡くなられた。（昭和36～41年美歯会監事。）

角野喜興太先生転居、室蘭へ。

昭和33年より、三菱美唄鉱業所に勤務された。（昭和36、7年美歯会理事。）

昭和41年

美唄沼東高校廃校

12月

伊藤孝輔先生　鵡川町に転出（12月9日）

昭和42年

新生北海道歯科医師会発足20周年

北海道歯科医師会館落成（札幌市中央区大通西7丁目）

北海道大学歯学部開校

前山巌先生転出　3月25日（昭和36～41年美歯会理事）

山本良生先生　東京都中野市御開業の為転出　8月14日

加藤由比先生　大夕張炭鉱病院へ転出　10月25日

この年、恒例の旅行会には、銭函はせ川ガーデンに一泊した。

この時の様が、道歯通信に雨田先生の記述で紹介されている。

4月初めから約2ヵ月にわたって市内中・小・幼各校の春季学童口腔検診の無事終了をみたが、5月21日、恒例によって、美唄歯会会員旅行会を銭函町はせ川ガーデンにて一泊で行われた。午前中は、学校検診を各自実施して、午後から出発するという、いうなればかけ足旅行会のため、いかに風光明媚でも、またまた、いかに料理が美味でも、余りにも遠いところでは、山越え川越え目的地へたどり着いたら夜の7時、8時では、ただただ疲れに行くごときものとなるので、旅行地を見つけるのが難しい。札樽国道の中間の山腹にたてられたホテルは、日本海を一望にでき、札幌にも近く、また、新鮮な海浜料理もなかなかなできで、旅行会をさらに楽しいものにしてくれた。夜ともなれば、青い灯、赤い灯、ナイター設備完備の札幌へ急ぐグループもあれば、ナイター行き車に乗り遅れ、腹立ちま

ぎれに大トラになる一幕もあったりして、各自なかなかの脱線ぶりであった。ナイターも延長戦に入ったらしく、なかなかご帰館遊ばされないうちに、何時とはなく眠ってしまった。早朝の日本海は、はるかに積丹半島も眺められ、後には春香山、手稲山と薄かすみが中に連なり、文字通りの絶景であった。口腔衛生週間の行事の一つとして、美唄歯会においては、春季口腔検診の結果に基づいて、学童の要抜歯乳歯抜去を、各学校まで出向いて行なった。ただ、大変残念に感ずることは、こういう行事の不馴れのためか、また、乳歯要抜去歯牙に対しての認識不足のせいか、必ずしも熱意があると思われない学校のあったことは寂しかった。来年からは、そういう学校の無いことを切望したいものである。

11月25日

北海道民生部保険課及び北海道歯科医師会の共催による岩見沢、美唄、夕張、空知の四郡歯会会員に対して、岩見沢市において社保新点数の講習会が開かれた。

衛藤技官、沢野保険部長が講師。

昭和43年

専修大学北海道短期大学、美唄に開学

7月22日～10日間

昭和43年度市内満三才児口腔検診を美唄保健所の要請により行なう。

市内各所に散在する生活館、児童会館、農協会議室などの会場を利用して、12会場において実施した。

人口も6万に満たなくなったが、歯科医師もかっての30名近くから10名以上も減少しており、延べ10日間を要した。

角野喜代太先生退会

12月24日

高橋常保先生亡くなる。

昭和23年、美唄歯科医師会発会時の初代会長であり、歯科医師として50数年の長きにわたり、ご活躍された。

歴代理事、道歯代議員等要職を歴任した。

詳細は歴代会長紹介参照。

昭和44年

2月

歯科助手教育始まる。

2月15日から毎週土・日曜、4週間、岩見沢市民会館において、岩、美二歯会共催で助手教育講習会が開催された。

宝崎錠二学術担当理事が講師として、出向された。

4月

美唄最長老の飯田右翼先生、閉院。

大正５年以来、60年近くの歯科医療に幕がおろされた。

「80才で現役で診療に従事しておるのは、道内広しといえども、私くらいのものだよ。」という御自慢が聞かれなくなるのは、大変淋しい気がする。

美歯会は、名誉会員の列に加え、日歯・道歯会における終身会員と同様の待遇授与を決定した。

昭和23～25年、36、7年　道歯代議員、昭和26、7年美歯会副会長。

７月

15日より1ヵ月間北野先生世界一周旅行に夫人同伴で出発。

スイも甘いもかみ分けるようなご夫婦を目指して、スイスからアメリカへも。

８月５～８日迄

美唄市国保運営委員として、美歯会長　扇谷一貫先生、北見市、網走市、紋別市の国保関係業務の視察へ。

昭和45年

旭小学校廃校

美唄炭山、我路、盤の沢、東明の各駅が無人駅に。

校医手当て是正さる。

昨年以来の市教委との折衝のすえ、校医手当ての是正を見た。

美唄歯会では、学校医手当に限らず、学校医の割り当て、口腔衛生週間行事、三才児検診、就学児検診などすべて美唄歯会が、市当局、保健所などと折衝することになっている。その手当は一切が歯会に納入される。

歯会の運営は、それによりまかなわれ、親睦旅行会も年二回、各種会合もその範囲内で行われ、郡歯会費としての徴収はなく、現在に至っている。

７月16日

美唄歯会月例会を薬物による、医療事故防止の為の講習会を主題として開催した。美唄労災病院薬局長の松田先生に講師をお願いした。

昭和46年～47年

昭和46年６月30日　保険医総辞退決行

昭和47年４月29日　三菱大夕張炭鉱美唄鉱業所閉山

美唄鉄道廃止

道歯郡部へ老人医療費無料化行きわたる。

老人医療費無料化問題で、市より要請ある。

（市在住　70才以上　当時1860名）